

73

シクリカル株とディフェンシブ株、
どちらのほうが儲かりやすいか？

A

どちらもメリット・デメリットを理解した上で活用するようにしましょう。



景気敏感株と景気に左右されづらい株

シクリカル株とディフェンシブ株は、それぞれ活用する場面が大きく異なりますので、経済的な時流を理解した上で利用できるような良いと思います。

まず『シクリカル』という意味を理解しなくてはなりません。これは「環境的な景気変動」のことを指します。例えば、景気にはサイクルがあります。景気の回復、拡大、衰退(後退)、悪化、回復・・・というような循環です。このような景気変動に伴い、株価が上昇したり下降したりと影響を受けやすい銘柄のことをシクリカル株と呼びますが、別称で景気敏感株とも言いますので、併せて覚えておくと良いでしょう。

さてシクリカル株の例ですが、自動車や建設(マイホームの建設やビル建築など)、家電製品などは、景気状況に

よって売れ行きが伸びたり、逆に買い控えによって売れ行きが落ちたりします。つまり、好景気時には株価も上昇しやすい一方で、不況時には株価は下落しやすいという関係性ははっきりとしているのです。

では、ディフェンシブとはなんなのでしょうか？ これは「防衛」という意味がありますが、株においては、景気に左右されにくく、景気が良くても悪くても影響を受けづらい銘柄のことをディフェンシブ株と呼びます。

ディフェンシブ株には、景気に左右されづらいところから、例えば食品や医薬品などのほか、公共事業などに関連する銘柄が該当します。

よくよく考えればわかると思いますが、景気が悪くなったからといって、物を食べなくなるということはなく、同様に病気にもなりません。また、公共事業も景気が悪くなったから道路の整備をしないなどということはないはず。このように景気に左右されづらい銘柄は、比較的安定し

ていることから、例えばディフェンシブ株の中でも、高配当銘柄などは人気が高いと言えます。

どちらもそれぞれメリットとデメリットがありますが、しっかりとそれぞれを理解した上で、どちらを投資対象にするかを決めるべきです。安直に景気の動向だけを追って購入するのはかなり危険だと言わざるを得ません。景気の程はもちろんです、本当に世の中が求めているものなのかどうか？ についてしっかりと見極めた上でチョイスすることを心がけましょう。

間違わないためのポイント

- ✔ シクリカル株は、経済状況により売上が利益が左右されやすい
- ✔ ディフェンシブ株は、景気に左右されづらく、日常生活に密着した企業業績が多い

図表 メリット・デメリット一覧

	メリット	デメリット
シクリカル株 (景気敏感)株	景気が回復時に、大きなリターンを得やすい	景気の悪化で、大きく値下がるリスクが高い
ディフェンシブ株	景気が悪いときでも安定したリターンが期待できる	景気が回復時にシクリカル株ほど大きなリターンは得られない
景気敏感株とディフェンシブ銘柄をセクター別に分類		
景気敏感株	ディフェンシブ株	
鉄鋼 / 繊維製品 / 建設 / 銀行 / 化学 / 石油・石炭 / その他金融 / 輸送用機器 / ガラス土石 / 証券・先物 / 非鉄金属 / パルプ・紙 / 不動産 / 卸売 / 電気機器 / 精密機器 / 金属製品 / 鉱業 / 空運 / ゴム / 海運 / 機械	その他製品 / 電力・ガス / 陸運 / 食料品 / 水産・農林 / 小売 / サービス / 情報・通信 / 保険 / 倉庫・運輸	
	圧倒的に景気敏感株の方が多い	